

○倉持清美 柴坂寿子

(お茶の水女子大)

目的 お弁当場面で特にふざけ行動がみられる子どもがいた。その子どもの幼稚園生活全般を通じての人間関係、活動の様子から、その子にとって、お弁当の時間がどのような時間になっているのかを検討する。

方法 入園から卒園までの2年間にわたって、ビデオとフィールドノートを使って縦断的な観察を行った。その資料の中から、子どもたちの人間関係についての量的資料、お弁当時の会話資料、担任保育者との月ごとの話し合い資料、子どもへのインタビュー資料等を用いた。これらの資料から、対象となった子どもの幼稚園生活の様子を浮き彫りにし、その中でお弁当時間の特徴を考察した。

考察 お弁当の時間は、幼稚園の生活のなかで、ある一定の時間、同じメンバーで会話を楽しむ時間になっていると考えられる。そのため、お弁当の時間は、親密な関係を作る機会を子どもたちに提供しているとも捉えなれる。そのような特徴を持つお弁当の時間に、対象となった子どもは、よくふざける行動をとっていた。特にある子どもの隣、あるいは同じグループになったときに、そのような行動が顕著になった。その子どもとは、幼稚園生活を通じて、親しい時期、関係が不安定な時期などいろいろな様相があった。その時期に対応した、対象児のお弁当の時間の行動の特徴があると考えられる。その点について考察した。